

大高川の生き物と水環境

★ 大高川の概要



二級河川 大高川	
河川延長	2.88km
流域面積	7.2 km ²
環境基準	—
環境目標値	☆☆☆



大高川は、緑区水主ヶ池を源とし、扇川に合流する延長約2.9kmの河川です。

大高川の流域は、大高緑地やため池、畑など緑地や水辺が残されています。

また、大高川には、農業用のラバーダムが設けられおり、かんがい期には、ラバーダムに空気をいれて膨らませ河川の水を堰上げて農業用水を取水しています。

★ 大高川の生き物

調査地点	平成22年度	平成24年度	平成26年度
	瀬木川合流点	瀬木川合流点	大高橋
魚種			
ニホンウナギ	★	★	★
コイ	○	○	○
コイ科		○	
ゲンゴロウフナ	○		
ギンフナ	○		○
フナ属	○	○	
タイリクバラタナゴ	○	○	
オイカワ	○	○	
モツゴ	○	○	○
タモロコ	★	★	
カマツカ	○	○	
アユ	★	★	★
アカエイ			○
カダヤシ	○	○	○
ミナミメダカ	★	★	
スズキ	○	○	
マゴチ			○
ブルーギル	○	○	○
ボラ	○	○	○
メナダ	○	○	○
トビハゼ	★		★
スミウキゴリ	★		
ピリンゴ	○		○
ウロハゼ			○
マハゼ	○	○	○
マサゴハゼ			★
アベハゼ			○
ゴクラクハゼ	○	○	
シモフリシマハゼ			○
カワヨシノボリ		○	
又マチチブ	○	○	
チチブ	○		○
ハゼ科			○
カムルチー	○	○	○
種類数	25	20	21

※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物

ニホンウナギ（市指定：絶滅危惧ⅠB）



モツゴ



アユ（市指定：絶滅危惧Ⅱ）



ボラ

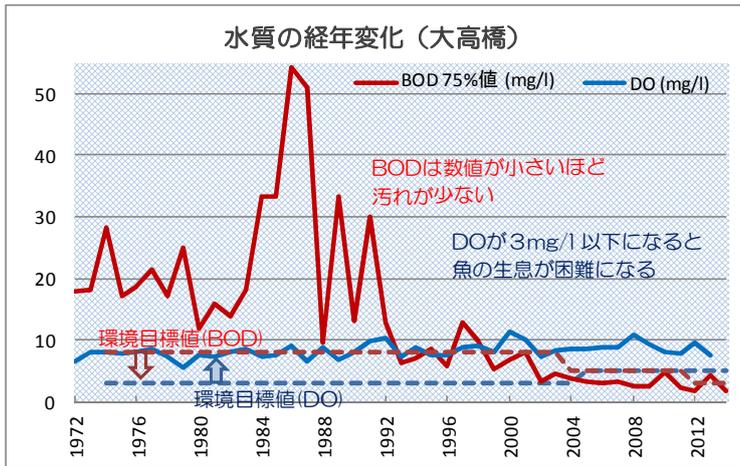


大高川で捕獲された魚の種類に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。

また、中流部(瀬木川合流点)と下流部(大高橋)を比べると、中流部では淡水魚であるオイカワやモツゴが確認され、下流部はハゼ科の魚が中流部よりも多く確認されています。

大高川は名古屋港との距離が近いこともあり、他の河川よりも生息が確認された魚種は多い傾向にあります。

★ 大高川の水質



大高川流域の約30%は、大高緑地や市街化調整区域(名古屋市外)となっており、開発が制限されています。

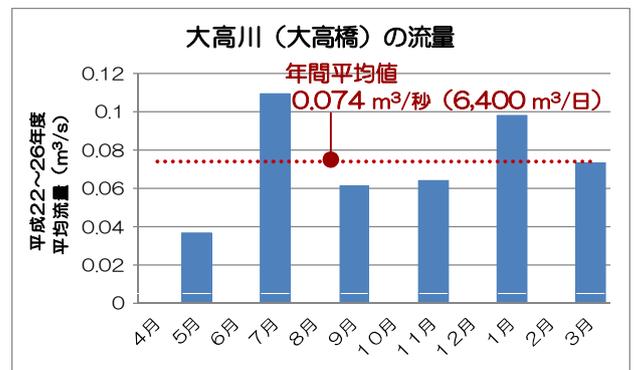
市街化区域においては、古くからの市街地があり、また昭和55(1980)年頃から大規模な宅地開発が進んでいます。宅地化に伴い、大高川へ流入する生活排水の量が増加したことによって、水質が悪化しましたが、昭和60(1985)年度から下水道が順次整備され、水質は改善してきています。

水中に溶けている酸素量を示すDOは、環境目標値を達成しています。主に有機物による汚濁度合いを示すBODは、環境目標値を達成できない年があります。

★ 大高川の流量

大高川は、流域に降った雨水を主な水源としています。流域では、下水道が整備され、生活排水は柴田水処理センター又は鳴海水処理センターで処理され、天白川へ放流されています。

※ 流量は、引き潮時に測定しています。また、ラバーダムによる堰上げなどにより大高橋での計測が困難な場合は、ラバーダムより上流に位置する菊井橋で計測しています。



★ ため池の保全

大高川の流域には、ため池が点在しています。かつては、農業用の水の供給源として、この地域の水田を潤していました。水田が、少なくなった現在でも、ため池は、貴重な水辺空間として見直されているほか、都市化が進み保水機能が低下したことを補う遊水地的機能(洪水調節機能)も有しています。そこで、名古屋市では「名古屋市ため池環境保全協議会」を立ち上げ、池の保全や機能の保持を行っています。



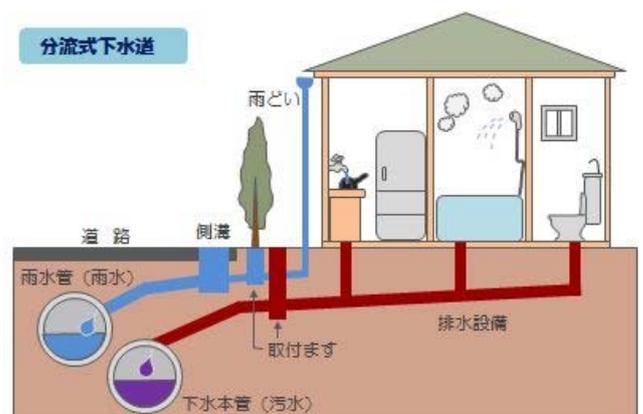
水主ヶ池

★ 下水道の整備

大高川の流域全域が分流式下水道区域※です。流域の下水道は、昭和60(1985)年度から順次整備され、おおむね整備が完了しています。

生活排水などの汚水は、柴田水処理センター(東海道本線以西の区域)又は鳴海水処理センター(東海道本線以东の区域)に集められ、処理した後、天白川へ放流されています。雨水は、大高川に放流されています。

※ 分流式下水道とは？
生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集め、汚水は水処理センターまで運び処理をし、雨水は川に放流する下水道の方式。



手越川の生き物と水環境

★ 手越川の概要



手越川は、緑区境松付近を源として、扇川に合流する延長約3.0kmの河川です。手越川に沿うように旧東海道が通っており、現在も、国の伝統工芸品である有松絞の染色工場などが立地しています。流域は、開発が規制されている大高緑地を除き、宅地化が進んでいます。

手越川		
河川延長	二級区間	1.99km
	普通河川区間	1.02km
流域面積	3.6 km ²	
環境基準	—	
環境目標値	☆☆☆	



凡例

- 生物調査地点
- 水質調査地点
- 流量観測地点

★ 手越川の生き物

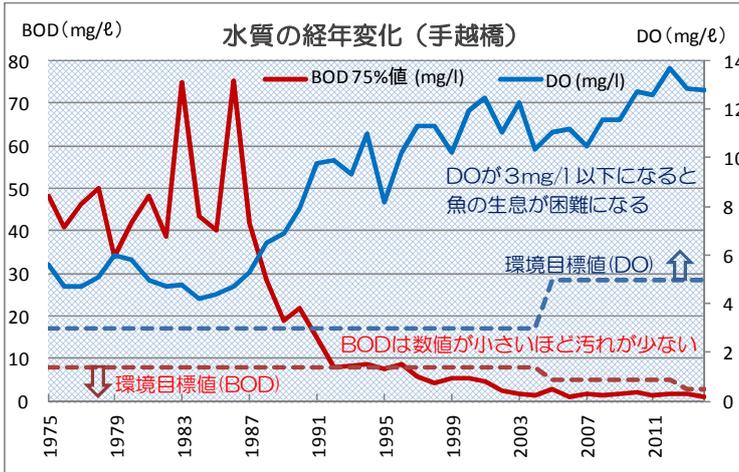
調査地点	平成23年度	平成26年度
	手越橋	手越橋
魚種		
コイ	○	○
コイ科	○	○
ギンブナ	○	○
キンギョ	○	○
オイカワ	○	○
モツゴ	○	○
ドジョウ	★	★
ナマス	○	○
カダヤシ	○	○
ミナミメダカ		★
ウキゴリ		★
ヨシノボリ属	○	○
ヌマチチブ	○	○
チチブ	○	○
カムルチー	○	
種類数	12	12

手越川で捕獲された魚の種類数に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。平成26年度の調査では、平成23年度の調査で確認できなかったミナミメダカが春・夏・秋・冬の4季とも確認されました。



※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物

★ 手越川の水質

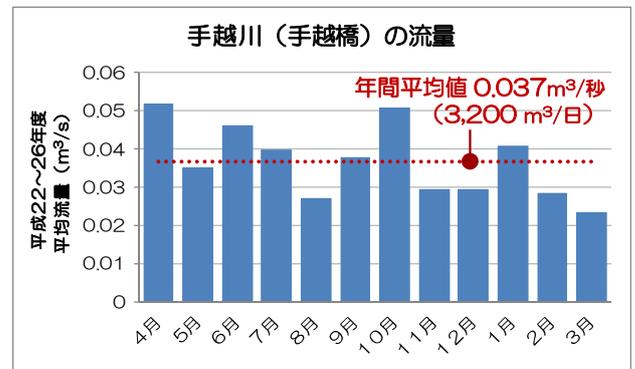


流域の染色工場からの排水や市街化に伴って増加した家庭からの生活雑排水が、直接手越川に流れ込んでいたことによって、1980年代前半までは、川の水は汚れ、藍色や紫色に変色していました。その後、下水道の整備・普及によって排水などが処理されてから川に流れ込むようになり、水質はきれいになってきました。

近年、主に有機物による汚濁度合いを示すBODや水中に溶けている酸素量を示すDOは、環境目標値を達成しています。しかし、DOは、自然状態よりも高い傾向にあるため、昼間に植物プランクトンや水草・藻が光合成し、水中の酸素量を増加させていると考えられます。

★ 手越川の流量

手越川は、扇川との合流点から約500m上流までの区間が感潮区間（潮の満ち引きの影響を受ける範囲）です。手越川流域の生活排水などの汚水は、鳴海水処理センターで処理され、天白川に放流されるため、手越川の水源は雨水が主なものとなっています。晴天時の手越橋付近の水深は、20cmに満たないことも多く、十分な水深・水量ではないので、流量の確保が課題となっています。



★ ため池の保全

手越川の流域には、琵琶ヶ池などのため池があります。かつては、農業用の水の供給源として、この地域の水田を潤していました。水田が、ほぼなくなった現在でも、ため池は、貴重な水辺空間として見直されているほか、都市化が進み保水機能が低下したことを補う遊水地的機能(洪水調節機能)も有しています。そこで、名古屋市では「名古屋市ため池環境保全協議会」を立ち上げ、池の保全や機能の保持を行っています。

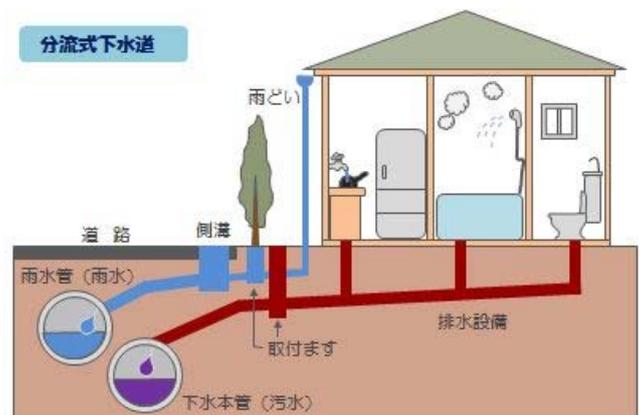


琵琶ヶ池

★ 下水道の整備

手越川の流域全域が分流式下水道区域※です。流域の下水道は、1980年代に整備されました。生活排水などの汚水は、鳴海水処理センターに集められ、天白川に放流されています。雨水は、直接手越川やその支川へ放流されています。

※ 分流式下水道とは？
生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集め、汚水は水処理センターまで運び処理をし、雨水は川に放流する下水道の方式



植田川の生き物と水環境

★ 植田川の概要



植田川は、長久手市を源として名東区・天白区を流れ、天白川に合流する延長約9.1kmの河川です。植田川の流域は、ほぼ丘陵地で、流域には塚ノ杵池・牧野池など数多くのため池があります。名古屋の東の玄関口である東名高速道路名古屋インターチェンジが開設した頃から土地区画整理事業が盛んに行われました。

植田川	
河川延長	二級区間 4.79km
	準用区間 4.34km
流域面積	21.0 km ²
環境基準	—
環境目標値	☆☆☆



凡例

- 生物調査地点
- 水質調査地点
【二重枠：環境局測定地点】
- 流量観測地点
- 主な流入源
・西山水処理センター
・植田水処理センター

★ 植田川の生き物

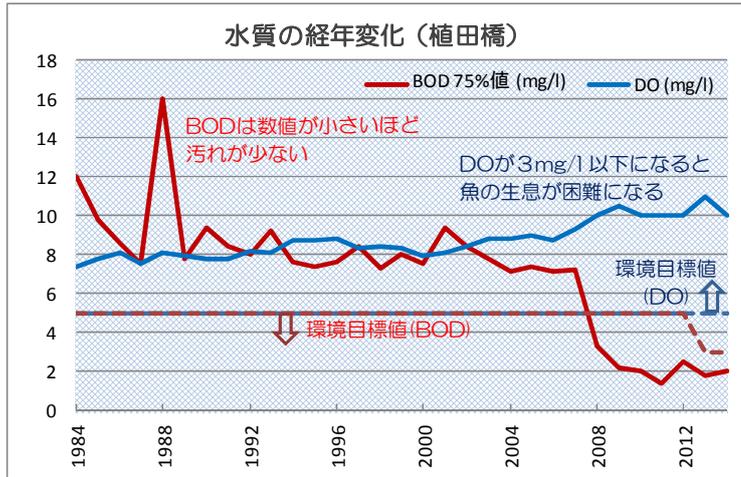
調査地点	平成21年度		平成25年度	
	焼山橋	植田橋	焼山橋	道明橋
魚種				
コイ	○	○	○	○
ギンブナ		○		
フナ属	○	○	○	○
オイカワ		○	○	○
モツゴ	○	○	○	○
タモロコ	★	★	★	★
カマツカ		○		○
ドジョウ	★			○
ナマズ		★		
カダヤシ	○	○	○	○
ミナミメダカ	★		★	★
ブルーギル			○	○
オオクチバス	○			
スミウキゴリ	★	★		
カワヨシノボリ			○	
カムルチー	○	○	○	○
種類数	10	11	10	11



植田川で捕獲された魚の種類数に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。また、中流部と下流部を比べても生息している魚の種類などに大きな差はありません。

※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物

★ 植田川の水質



流域の市街化が進んだことにより、家庭からの生活雑排水や事業排水などが増加し、直接植田川に流れ込んでいたことによって、川の水は汚れていました。

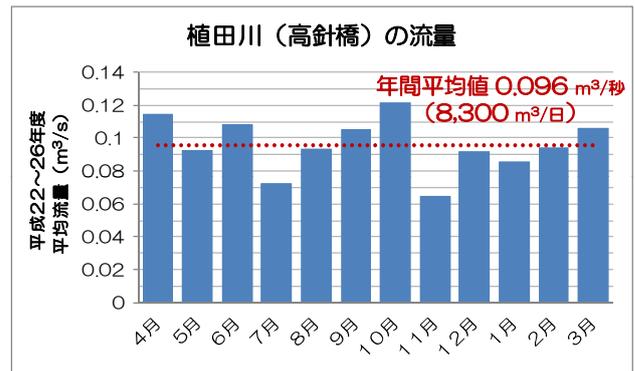
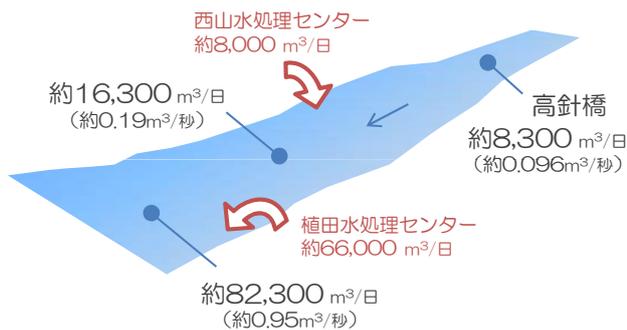
その後、下水道の整備・普及によって排水などが処理されてから川に流れ込むようになり、水質はきれいになってきました。

また、西山水処理センターで、窒素やリンを取り除く高度処理が運用（平成20(2008)年度：実証施設稼働、平成22(2010)年3月：本格施設稼働）されるようになり、水の汚れ具合を示すBODの値が改善されています。

植田川には、川底などに水草やモが多く生えており、この水草などが日中、光合成をすることによって、水の中に溶けている酸素の量(DO)が高くなっています。

★ 植田川の流量

植田川は、全域が順流区間（潮の満ち引きの影響がない区間）で、西山水処理センター（放流量：約8,000 m³/日）や植田水処理センター（放流量：約66,000 m³/日）の放流水が主な水源となっています。西山水処理センターより上流の区間は、水の量が少なく、水の深さも20cmに満たないことが多くなっています。



★ ため池の保全

植田川の流域には、ため池が多数点在しています。かつては、農業用の水の供給源として、この地域の水田を潤していました。

水田が、ほぼなくなった現在でも、ため池は、貴重な水辺空間として見直されているほか、都市化が進み保水機能が低下したことを補う遊水地的機能(洪水調節機能)も有しています。

そこで、名古屋市では「名古屋市ため池環境保全協議会」を立ち上げ、池の保全や機能の保持を行っています。



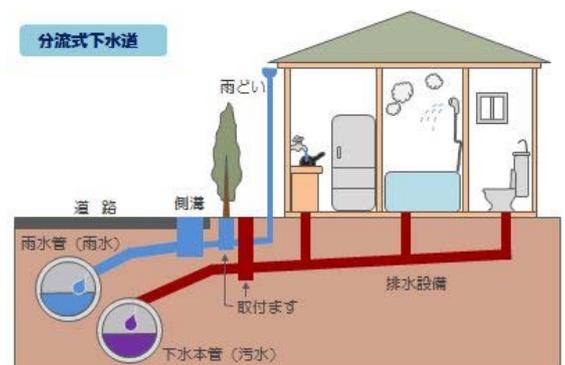
塚ノ杵池

★ 下水道の整備

植田川の流域全域が分流式下水道区域※です。流域のうち名古屋市内の区域の下水道は、昭和44(1969)年度から昭和63(1988)年度にかけて順次整備されました。長久手市内は、平成12(2000)年度から下水道が運用され、現在は、ほぼ整備が完了しています。

※ 分流式下水道とは？

生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集め、汚水は水処理センターまで運び処理をし、雨水は川に放流する下水道の方式



野添川の生き物と水環境

★ 野添川の概要



一級河川 野添川	
河川延長	1.85km
流域面積	6.3 km ²
環境基準	—
環境目標値	☆☆☆

野添川は、守山区カケヒ池を源とし、庄内川に合流する延長約1.85kmの河川です。

野添川の上流域は、市街化調整区域となっており森林公園として緑地が保全されています。

そのため、現在でも多くのため池が残されています。

また、中下流域では、土地区画整理事業が進められており、市街化が進んでいます。



野添橋付近



野添川人道橋付近

★ 野添川の生き物

野添川で捕獲された魚の種類に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。

また、中流部(野添川人道橋)と下流部(野添橋)を比べても生息している魚の種類に大きな差はありません。

今後、市街化の進展や野添橋の付替え工事や平成23年9月の台風による災害復旧の影響を確認していく必要があります。

調査地点	平成19年度		平成23年度	
	野添橋	野添橋	野添橋	野添川人道橋
魚種				
コイ	○	○	○	○
ゲンゴロウブナ		○		
ギンブナ		○		○
フナ属	○			
オイカワ	○	○		○
ヌマムツ				★
モツゴ	○	○		
タモロコ	★			
カマツカ		○		
ニゴイ		○		○
スジシマドジョウ	★			
ナマズ				★
ブルーギル		○		○
オオクチバス	○	○		○
カワヨシノボリ		○		○
ヨシノボリ属	○	○		○
ヌマチチブ				○
カムルチー				○
種類数	8	11		12

※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物



フナ

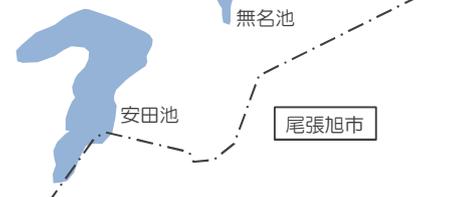


オイカワ

メス



オオクチバス (特定外来生物)



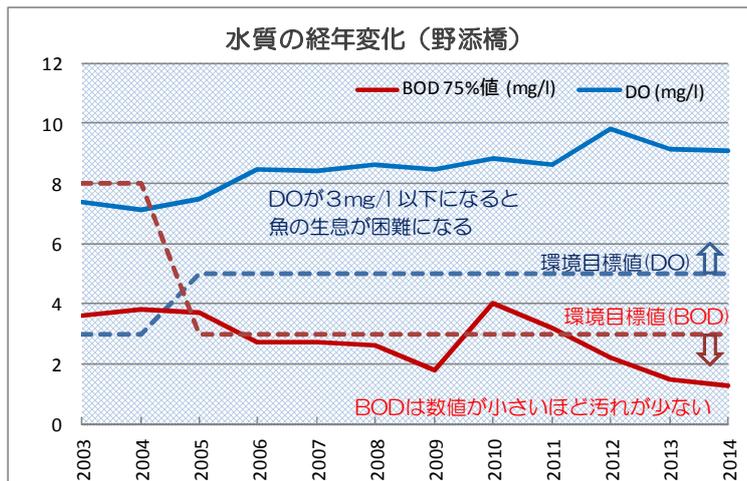
カワヨシノボリ



タモロコ (市指定：準絶滅危惧)



★ 野添川の水質



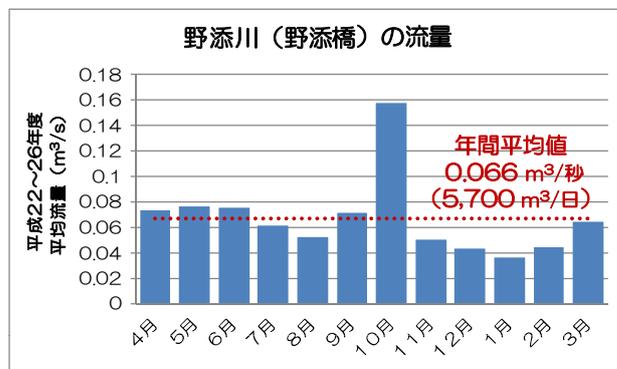
野添川流域では、市街化区域において土地区画整理事業が進行しており、宅地化が進んでいます。

宅地化に伴い、野添川へ流入する生活排水の量が増加することによって、水質の悪化が懸念されましたが、平成17(2005)年度から下水道が順次整備されてきたことから、水質は改善されてきています。

近年、主に有機物による汚濁度合いを示すBODや水中に溶けている酸素量を示すDOは、環境目標値を達成しています。

★ 野添川の流量

野添川は、流域に降った雨水を主な水源としています。また、生活排水も流入していましたが、下水道が整備された区域の生活排水は、守山水処理センターで処理され、庄内川へ放流されることから、下水道整備の進捗に伴って野添川の流量は減少する傾向にあります。



★ ため池の保全

野添川の流域には、ため池が多数点在しています。かつては、農業用の水の供給源として、この地域の水田を潤していました。

水田が、少なくなった現在でも、ため池は、貴重な水辺空間として見直されているほか、都市化が進み保水機能が低下したことを補う遊水地的機能(洪水調節機能)も有しています。

そこで、名古屋市では「名古屋市ため池環境保全協議会」を立ち上げ、池の保全や機能の保持を行っています。



カケヒ池

★ 下水道の整備

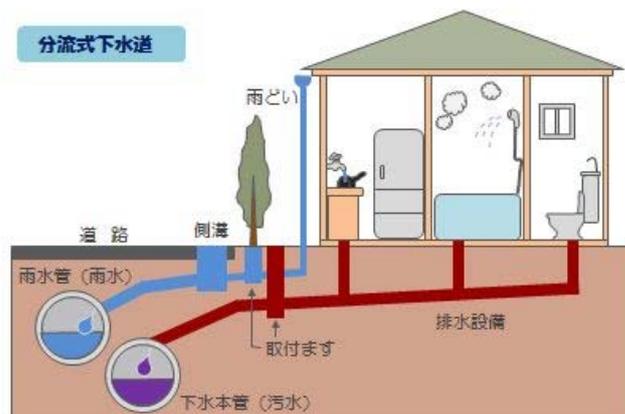
野添川の流域全域が分流式下水道区域※です。流域のうち市街化区域の下水道は、平成17(2005)年度から順次整備されています。

生活排水などの汚水は、守山水処理センターに集められ、処理した後、庄内川へ放流されています。

雨水は、野添川に放流されています。

※ 分流式下水道とは？

生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集め、汚水は水処理センターまで運び処理をし、雨水は川に放流する下水道の方式。



長戸川の生き物と水環境

★ 長戸川の概要



長戸川	
河川延長	一級区間 1.23km
	準用区間 0.87km
流域面積	4.8 km ²
環境基準	—
環境目標値	☆☆☆

長戸川は、尾張旭市滝ノ水池を源とし、庄内川に合流する延長約2.1kmの河川です。長戸川の流域のうち滝ノ水池周辺は、市街化調整区域となっており森林公園として緑地が保全されています。また、中下流域では、土地区画整理事業が進められており、市街化が進んでいます。



★ 長戸川の生き物

長戸川で捕獲された魚の種類に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。また、下流部(天王橋)と中流部(長戸橋上流部)を比べても生息している魚の種類に大きな差はありません。今後、市街化の進展や長戸川の治水工事の影響を確認していく必要があります。

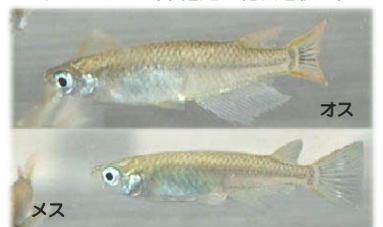
調査地点	平成20年度		平成21年度		平成25年度	
	天王橋	長戸橋上流部	天王橋	長戸橋上流部	天王橋	長戸橋上流部
魚種						
コイ	○					
フナ属	○	○	○	○	○	○
オイカワ	○	○	○	○	○	○
オイカワ属	○	○				
ヌマムツ	★	★	★	★	★	★
モツゴ	○	○	○	○	○	○
タモロコ	★	★	★	★	★	★
カマツカ		○	○	○	○	○
ドジョウ		○				
ナマズ	★		★			
ミナミメダカ	★	★	★	★	★	★
ブルーギル	○	○	○	○		
オオクチバス		○	○			
カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
ヨシノボリ属	○					
種類数	12	12	11	9		

※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物

オイカワ



ミナミメダカ (市指定：絶滅危惧Ⅱ)



フナ



モツゴ



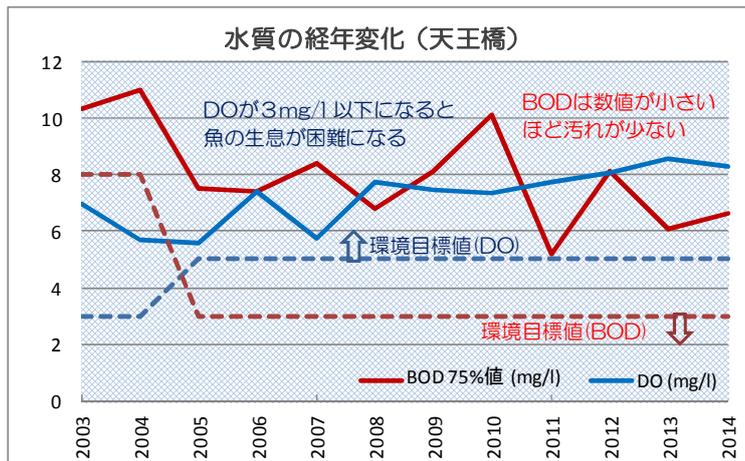
オオクチバス (特定外来生物)



カワヨシノボリ



★ 長戸川の水質



長戸川流域では、市街化区域において土地区画整理事業が進行しており、宅地化が進んでいます。

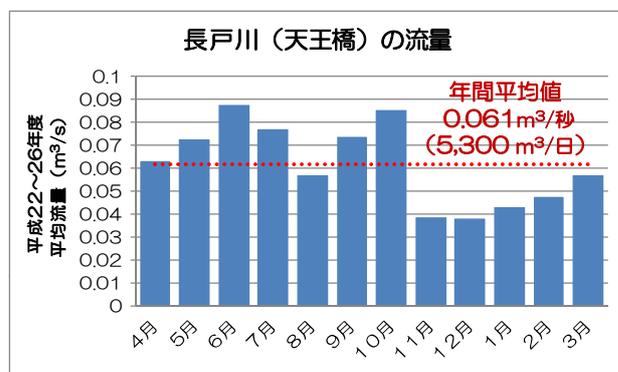
宅地化に伴い、長戸川へ流入する生活排水の量が増加することによって、水質の悪化が懸念されましたが、下水道が順次整備されたこともあり、水質は大きく変化していません。

水中に溶けている酸素量を示すDOは、環境目標値を達成しています。

しかし、主に有機物による汚濁度合いを示すBODは、環境目標値の3.0mg/lを満たしていません。長戸川の流域は、下水道が整備途上にあるため、特に川の流量が少なかった平成22(2010)年度は、生活排水が川の水で希釈されず、BODが高くなっていると考えられます。

★ 長戸川の流量

長戸川は、流域に降った雨水を主な水源としています。また、生活排水も流入していましたが、下水道が整備された区域の生活排水は、守山水処理センターで処理され、庄内川へ放流されることから、下水道整備の進捗に伴って長戸川の流量は減少する傾向にあります。



★ ため池の保全

長戸川の流域には、ため池が多数点在しています。かつては、農業用の水の供給源として、この地域の水田を潤していました。

水田が、少なくなった現在でも、ため池は、貴重な水辺空間として見直されているほか、都市化が進み保水機能が低下したことを補う遊水地的機能(洪水調節機能)も有しています。

そこで、名古屋市では「名古屋市ため池環境保全協議会」を立ち上げ、池の保全や機能の保持を行っています。



滝ノ水池

★ 下水道の整備

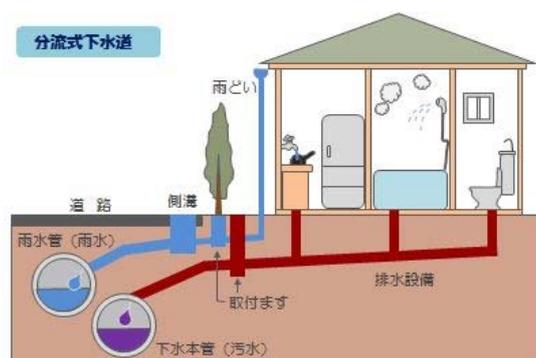
長戸川の流域全域が分流式下水道区域*です。流域のうち市街化区域の下水道は、平成17(2005)年度から順次整備されています。

生活排水などの汚水は、守山水処理センターに集められ、処理した後、庄内川へ放流されています。

雨水は、長戸川に放流されています。

※ 分流式下水道とは？

生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集め、汚水は水処理センターまで運び処理をし、雨水は川に放流します。



戸田川の生き物と水環境

★ 戸田川の概要



戸田川は、中川区北西部を源として日光川に流入する延長約9.1kmの河川です。戸田川の流域は、低平地であり、昭和30年代～50年代に地下水を過剰に汲み上げたことによって著しい地盤沈下が起こり、河川の水、は河口の排水機場で日光川にポンプ排水をしています。近鉄名古屋線より南の大部分は、市街化調整区域で、水田が広がっています。

春幡橋付近



富永橋付近



戸田川		
河川延長	二級区間	7.15km
	準用区間	1.94km
流域面積	11.8 km ²	
環境基準	—	
環境目標値	☆	

★ 戸田川の生き物

捕獲された魚の種類数に大きな変動はなく、魚の生息環境は安定しています。また、上流部(春幡橋)と中流部(富永橋)を比べても生息している魚の種類に大きな差はありません。捕獲された魚の数は、全般的に上流部の方が多く、水際の植生が豊かな場所に多く生息しています。

調査地点	平成20年度		平成24年度	
	春幡橋	富永橋	春幡橋	富永橋
魚種				
コイ	○	○	○	○
ゲンゴロウブナ		○	○	○
ギンブナ			○	○
フナ属	○	○	○	○
タイリクバラタナゴ	○	○	○	○
カワバタモロコ	★		★	★
スゴモロコ属		○		
モツゴ	○	○	○	○
カダヤシ	○	○	○	○
ヒメダカ			○	
ブルーギル	○	○	○	○
カワヨシノボリ			○	○
ヨシノボリ属	○	○	○	○
アマチチフ			○	○
種類数	8	9	13	12

※ 緑字：市重要種、赤字：特定外来生物・要注意外来生物



モツゴ



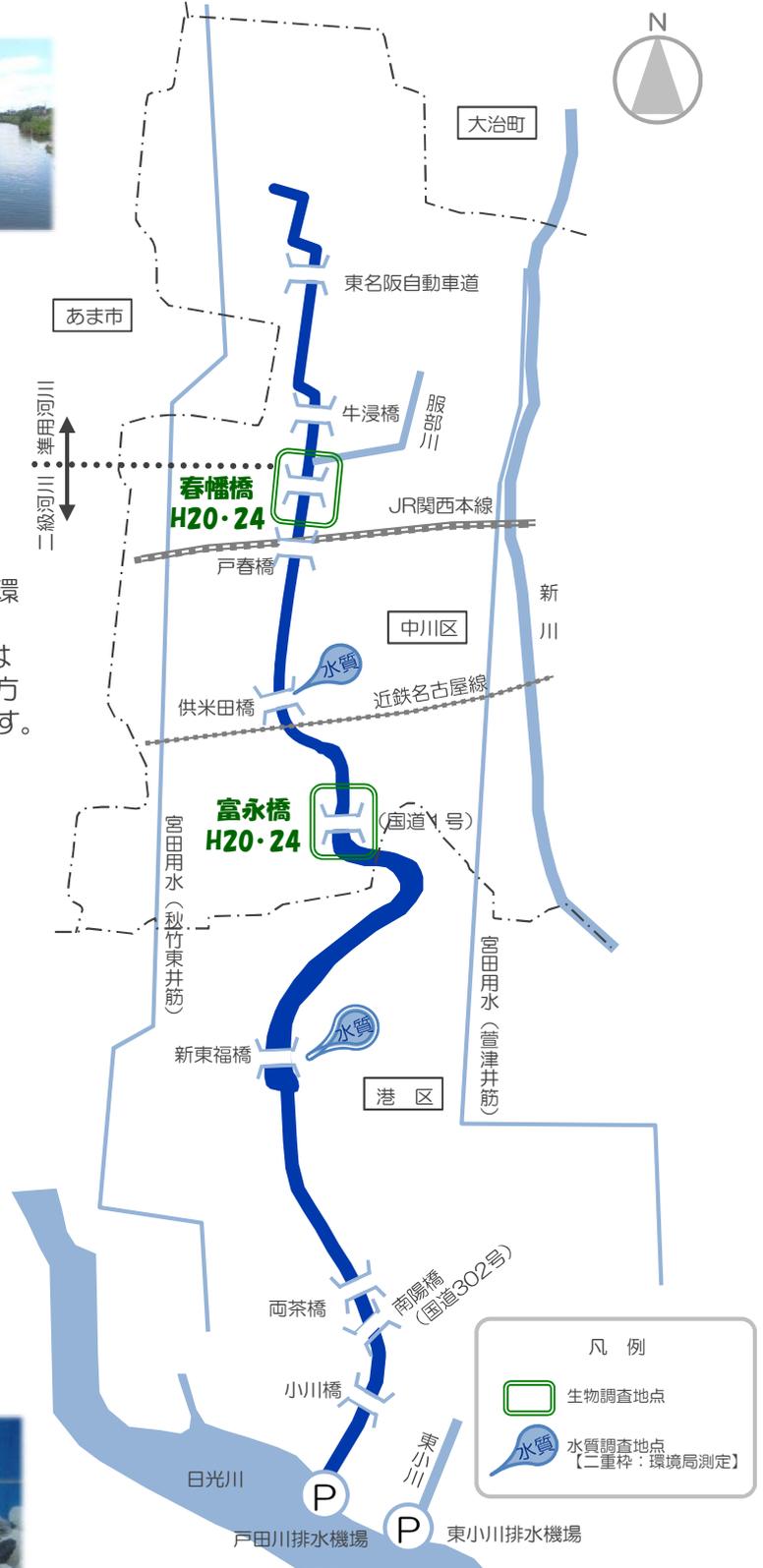
アマチチフ



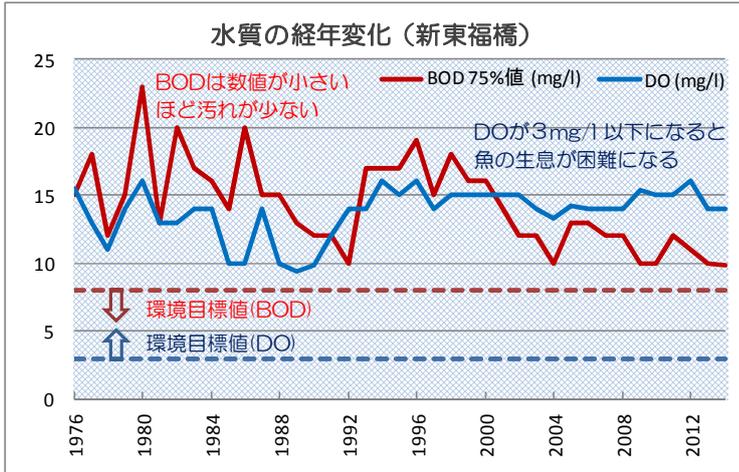
タイリクバラタナゴ (要注意外来生物)



カワヨシノボリ



★ 戸田川の水質



市街化が進んだことや家庭からの生活排水などが戸田川に流れ込んでいたことによって、川の水は汚れ、主に有機物による汚濁度合いを示すBODは、環境目標値8mg/lを超えていました。

その後、下水道の整備によって汚水の流入が減り、水質は改善傾向にあります。

しかし、戸田川は、水源が乏しく、水が入れ替わりにくいことから、水中の栄養分(窒素やリン)が増加する“富栄養化”の状態が続いています。

この栄養分で成長する水草や植物性プランクトンが増殖(植物プランクトンが異常増殖した状態が赤潮)し、日中、光合成をするこ

とによって、水中に溶けている酸素の量(DO)は、高くなっています。

一方、夜間は、水草や植物性プランクトンが呼吸することによって、水中の酸素が急激に消費されることから、水中の酸素が不足し、生物の生息が危ぶまれることがあります。

★ 戸田川の流量

戸田川は、かんがい期に農業用水が流入するほかは、雨水が流入するだけの水源の乏しい川です。

戸田川河口に位置する戸田川排水機場から日光川へ排出した水量(H23~H25実績)から推定すると、戸田川の水がすべて入れ替わるのに、かんがい期(4~10月)で約5日、非かんがい期(11~3月)で約18日かかる*こととなります。

* 降雨も含んで計算しています。



★ 下水道の整備

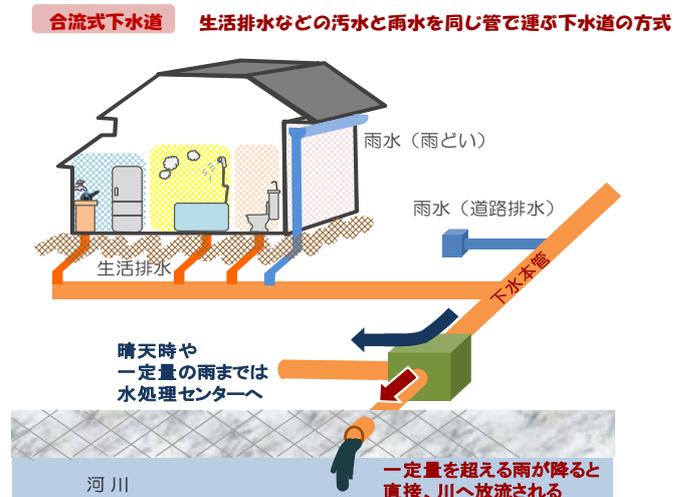
戸田川の流域の下水道は、1980年代後半から順次整備されており、市内は一部を残して、ほぼ整備が完了しています。

戸田川の流域の多くは、生活排水などの汚水と雨水を同じ管で集める合流式下水道が採用されています。

戸田川流域の汚水は、庄内川の東に位置する打出水処理センターで処理された後、庄内川に放流されています。

一定量までの雨水は、汚水と一緒に打出水処理センターに運ばれますが、一定量を超える雨が降ると、道路面などの汚れや生活排水などの汚水を含んだ雨水が、直接戸田川に放流されています。

戸田川流域では、雨天時に汚れがまじった雨水が流れ込むことによる川への負担を減らすため、汚れの度合いが大きい降り始めの雨を一時的に貯めておく“雨水滞水池”が整備されています。



用語の説明

★ 河川に関する用語

一級河川

「国土の保全または国民経済上特に重要な水系」である一級水系に係る河川のうち、国土交通大臣が指定した河川

二級河川

一級水系以外の水系で「公共の利害に重要な関係があるもの」に係る河川のうち、都道府県知事が指定した河川

準用河川

一級河川及び二級河川以外の河川で市町村長が指定した河川

水系

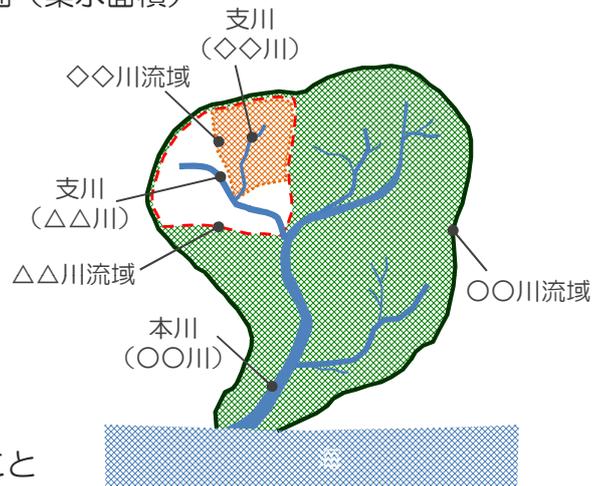
同じ流域内にある本川、支川とこれらに関連する湖沼を総称したもの

流域

その河川の流水となる雨水を集めてくる地域の範囲（集水面積）

本川・支川

流域内を流れる河川のうち、最も規模の大きい河川を本川（幹川、本流）といい、本川に合流する河川を支川という。



流量

河川を流れる一定時間あたりの水量のこと

感潮区域

潮汐の影響を受ける区間のこと

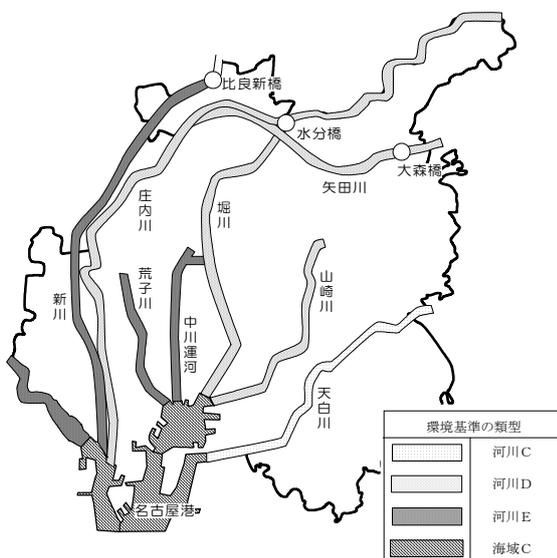
順流区域

潮汐の影響を受けず上流から下流へ流れる区間のこと

★ 水質に関する用語

環境基準

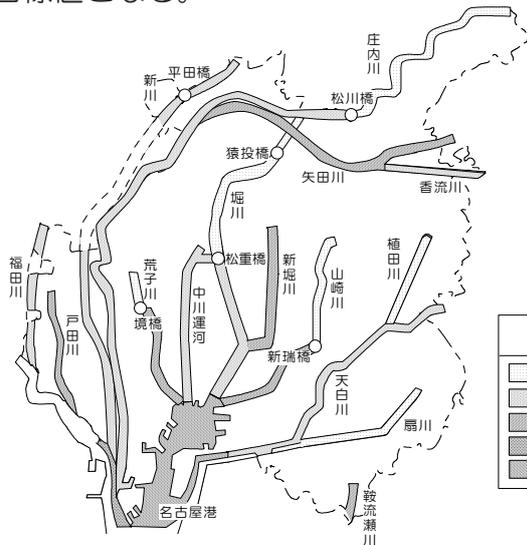
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として「環境基本法」に基づき設定されている。



項目 類型	利用目的の 適応性	基 準 値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
A A	水道1級、自然環境 保全及びA以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN /100mℓ以下
A	水道2級、水産1 級、水浴及びB以下 の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN /100mℓ以下
B	水道3級、水産2級 及びC以下の欄に掲 げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	5,000MPN /100mℓ以下
C	水産3級、工業用水 1級及びD以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—
D	工業用水2級、農業 用水及びEの欄に掲 げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	—
E	工業用水3級、環境 保全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ 以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2mg/ℓ 以上	—

環境目標値

「環境基本条例」に基づき、「市民の健康を保護し、及び快適な生活環境を確保する上で維持されるべき目標値」として設定されている。河川の環境目標値は、以下のように水域ごとに★～★★★★の3段階で設定され、その水域に流入する公共用水域（ため池を除く）も同じ目標値となる。



項目	河川		
	☆☆☆	☆☆	★
水素イオン濃度 (pH)	6.5以上 8.5以下		
生物化学的酸素要求量 (BOD)	3 mg/ℓ 以下	5 mg/ℓ 以下	8 mg/ℓ 以下
浮遊物質 (SS)	10mg/ℓ 以下	15mg/ℓ 以下	20mg/ℓ 以下
溶存酸素量 (DO)	5 mg/ℓ 以上		3 mg/ℓ 以上
ふん便性大腸菌群数	1000個 /100mℓ 以下	-	-
全亜鉛	0.03mg/ℓ 以下		
ノニルフェノール	0.002mg/ℓ 以下		
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS)	0.05mg/ℓ 以下		

BOD（生物化学的酸素要求量）

水中の汚濁物質（主として有機物）が微生物によって酸化分解されるときに必要とされる酸素量で、河川の汚濁を表す代表的な指標。値が大きいほど汚濁の度合いが高いことを表す。BOD75%値は、測定したBODのデータを数値の小さい順に並べて「データの数×0.75」番目にあたる測定値のことで、環境基準や環境目標値の達成状況を評価するときに使用する。

DO（溶存酸素量）

水中に溶解している酸素の量を表す。
一般的に、DOが3mg/ℓ以下となると魚の生息が困難であると言われている。

合流式下水道

生活排水などの汚水と雨水を同じ管で集める下水道の方式。
雨水は汚水と一緒に水処理センターに送られて処理されるが、雨量が増加し一定量を超えると、路面など街の汚れや汚水の一部を含んだ水が直接河川へと放流される。

分流式下水道

生活排水などの汚水と雨水を別々の管で集める下水道の方式。
汚水は、水処理センターまで運ばれ処理された後河川へ放流し、雨水は、河川へ放流される。

★ 生物に関する用語

重要種

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術上の重要性などからみて貴重と考えられる生物種。生息状況によって、絶滅～情報不足に分類されている。今回は、「レッドデータブックなごや2015」に掲載されている種を重要種として記載。

特定外来生物・要注外来生物

外来生物のうち、生態系、人の生命、身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので「外来生物法」で指定されている生物種。

種別	概要	種別	概要
絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	絶滅危惧 I B類 (EN)	I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態のみ存続している種	絶滅危惧 II類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
絶滅危惧 I類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
絶滅危惧 I A類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種

市内河川の生き物と水環境

平成28年3月発行

部 数 150部（非売品）

発 行 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課

本誌は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。
許可なく転載・複製を禁じます。

表紙の写真

1 山崎川 2 野添川 3 扇川 4 堀川 5 植田川 6 長戸川 7 戸田川 8 大高川 9 手越川

平成28年3月